



# 二中だより

第6号  
令和7年10月1日(水)  
鉈江市立鉈江第二中学校  
TEL 03-3480-8891  
FAX 03-5497-7362  
<http://www.komae.ed.jp/jh/02>

## 「いつか、きっと」を信じて

校長 植村 多岐

朝晩の空気がぐっと涼しくなり、季節はすっかり秋本番。空は高く澄みわたり、心も体もどこか軽くなるような、そんな気持ちになります。秋は「スポーツの秋」「芸術の秋」とも言われるように、何かに打ち込むにはぴったりの季節です。

さて、先日の大相撲秋場所では、若き横綱・大の里関が優勝し、幕を閉じました。大の里関は石川県出身。学生相撲で鍛えた実力を武器に角界入り。恵まれた体格と強い意志で稽古に励み、石川県の復興の象徴としての期待を背負いながら快進撃を続け、史上最速で第75代横綱という頂点に立ちました。

「序ノ口・序二段・三段目・幕下・十両・前頭・小結・関脇・大関・横綱」。これは、場所前にはり出される大相撲の番付表の順番です。この番付表、はじめは誰でも、虫眼鏡でやっと見えるような小さな文字ですが、番付が上がっていくにしたがって、だんだん大きな文字で自分の名前を書いてもらえます。過去を振り返ったとき、この番付表に載ったときが一番うれしかったと、多くの力士が口をそろえて言うそうです。そしてそのとき、こう心に誓うのだそうです。「いつか、きっと」「いつか、きっと」と。

私は、この「いつか、きっと」という言葉がとても好きです。それは何か「若さ」を象徴している言葉のようで・・・それは未来への希望であり、そこへたどり着くんだという思いがこもっています。そして、今の中学生にもぴったりの言葉ではないでしょうか。

さて、皆さん！皆さんはこれから何に向かって進むのでしょうか・・・中学生、特別に打ち込むものがないからと言って、決して立ち止まっているわけではなく心の中ではたくさん考え、感じ、迷いながらも、日々大きく成長している真っ最中です。だからこそ、自分が「これだ」と思えることに出会えたら、ぜひ全力でぶつかってみてください。夢中になれることがあるのは、若さの特権です。

海の向こうの大リーグも今、熱いですね。ドジャーズの大谷翔平選手が、けがを乗り越え再び二刀流で大活躍しています。彼の有名な話に、小学3年生のころから父親と続けていた交換日記「野球ノート」や、高校時代に書いていた「目標達成シート」（目標を真ん中に書き、目標実現のためのステップを81マスに細分化して記したもの）があります。<＊校長室前の廊下に掲示しています>

本当にすごいですね。小学生の時代からの「いつか、きっと」の積み重ねが、今の翔平選手を作り上げたのだと思います。そうやって、彼は一歩ずつ夢に近づいていきました。

しかし、どれだけ頑張っても、うまくいかないことはあります。負けたり、失敗したり、思い通りにならないことだってたくさんあります。それでも大切なのは、「自分で決めて、自分の意志で取り組むこと」です。誰かに言われたからではなく、自分の中から出てきた思いを大切に行動する。そうすれば、たとえ失敗しても、その経験には必ず意味があり、次につながる力となります。そしてその積み重ねが、きっと、あなたの「いつか、きっと」を支えてくれます。

10月。令和7年度も折り返しを迎えました。「いつか、きっと」そう信じる気持ちを胸に、これからも前を向いて歩いていってください。皆さん一人ひとりの挑戦を、楽しみにしています。

